

**製品名: PSCA ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16585**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	29kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PSCA
別名	PSCA; Prostate stem cell antigen
遺伝子 ID	8000.0
SwissProt ID	O43653
免疫原	抗血清は、ヒト前立腺幹細胞抗原由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 41-90

**背景**

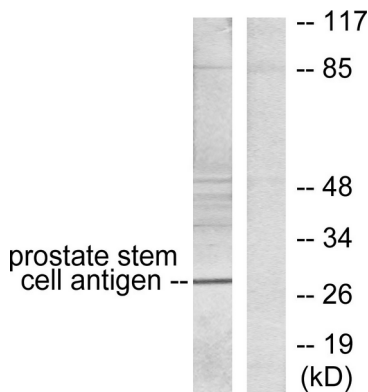
この遺伝子は、グリコシルホスファチジルイノシトールアンカー型細胞膜糖タンパク質をコードしています。前立腺で高発現しているほか、膀胱、胎盤、結腸、腎臓、胃でも発現しています。この遺伝子は、前立腺がんの大部分で発現が上昇しており、膀胱がんや

膵臓がんでも検出されています。この遺伝子には、一部の個体において上流開始コドンを形成する多型性があり、この多型性は特定の胃がんおよび膀胱がんのリスクと関連していると考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2010年2月]、機能: 細胞増殖の調節に関与している可能性があります。in vitro において細胞増殖阻害活性を有する。誘導: 胃癌細胞においてダウンレギュレーションが認められる。多型: PSCA の遺伝子変異は、びまん性胃癌の感受性に影響を与える可能性がある。類似性: 1つのUPAR/Ly6ドメインを含む。組織特異性: 前立腺(基底細胞、分泌細胞、神経内分泌上皮細胞)で高発現する。膀胱(移行上皮細胞)、胎盤(栄養膜細胞)、胃(神経内分泌細胞)、結腸(神経内分泌細胞)、腎臓(集合管)にも認められる。前立腺癌で過剰発現し、腫瘍の病期、悪性度、およびアンドロゲン非依存性と相関する。前立腺癌の骨転移で高発現する。胃上皮細胞、主に峽部で発現する(タンパク質レベル)。正常腸管上皮では検出されない(タンパク質レベル)。

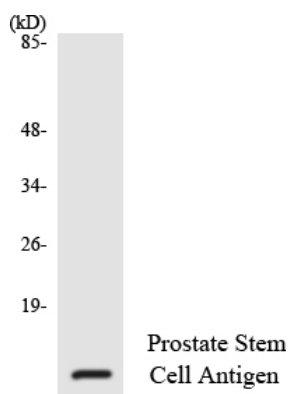
## 研究分野

タグと細胞マーカー; 細胞型マーカー; 腫瘍関連; 幹細胞; 癌幹細胞; 細胞内

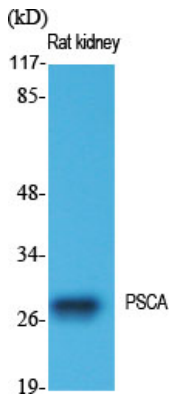
## 画像データ



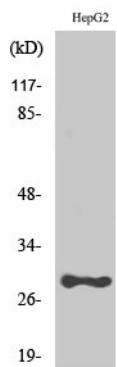
前立腺幹細胞抗原抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



前立腺幹細胞抗原抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した PSCA ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



PSCA ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析